

地域の将来像:住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

2022.3.15
第61号

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

スキー・スノーボード教室

1月8日(土)北上市の夏油高原スキー場を会場に「スキー・スノーボード教室」を保護者4名を含め11名の参加をいただき開催しました。講師としてスキー教室は石鳩岡の菊池忍さんと新地の菅原毅さん、スノーボード教室は石鳩岡の菊池孝吉さんから指導を頂きました。スキーの初心者と上級者、スノーボード



に分かれてそれぞれ指導を受け広いグレンデを思う存分滑っていました。スキーやスノーボードを履いて、最初はなかなか立てない子ども達もいましたが、時間が経つにつれ少しずつ慣れ教室が終わるころにはひとりでスイスイ滑れるようになっていました。子どもの成長は早いものですね。

小山田の情報を発信しています

明日の小山田を考える会では、ホームページを開設し、地域の皆様を始め多くの方々に、小山田地域にある文化財や名所、



石鳩岡神楽などの伝承芸能、小山田が生んだ偉人、小山田の特産品など、小山田地域の魅力あふれる情報を発信しています。また、各種事業の活動報告、小山田地域の四季いろいろな風景をフェイスブックに随時掲載しています。フェイスブックは地域内外多くの皆さんに見ていただき「いいね！」の評価が寄せられています。皆さんも是非見てください！！



◎ ホームページ : <http://www.asuno-oyamada.jp>

事業について参与と懇談



2月9日、小山田振興センターにて、室内の換気を常時取りながら1時間という短時間でしたが、今年度事業の検証と、来年度の事業方針・事業計画・事業予算についての意見交換を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による度重なる岩手緊急事態宣言の発令や花巻市施設利用制限により、開催を予定していた、地域の「大運動会」や「郷土芸能発表会」を中止せざるを得なくなりました。来年度は中止となった事業の開催や地域から出された交付金支援事業に出来るだけ応える様取組むことを確認し合いました。また、今年、役員の変更時期を迎える事から、新役員の選考について意見を交わし合いました。

来年度事業の取組みに向けて



総務部

2月22日から、コロナ感染防止策を取りながら、1時間という時間枠内で、5つの専門部が部ごとに日程と時間を設定し来年度事業の取組について部会を開催しました。1月に予定していた各専門部会が、1月24日の岩手緊急事態宣言の発令と花巻市施設利用制限により中止となってしまったことから、事前に各専門部委員から今年度の各事業の取組内容の感想と来年度事



生活環境福祉部

業の取組についての意見を聴取し、それを基に来年度事業の策定を進めました。来月の役員会を経て、4月に開催される総会に議案として提出されます。



産業振興部

新一年生に入学祝い品を贈呈

今年4月に東和小学校に入学する新一年生に当会から入学祝い品を贈りました。例年は「郷土芸能発表会」に併せて、「新入生お祝い会」を開催し、新一年生の紹介と祝い品の贈呈をしていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大と施設利用制限に伴い中止となったため、郵送に代えさせていただきます。今年は男の子6名・女の子2名の8名が入学します。登下校時に見かけた際は温かく見守ってあげてください。新一年生は早く学校生活に慣れ、友だちをいっぱい作ってください。 **頑張れ！ 新一年生！** \(\^o^)/



令和4年度も小山田地域内の風景をドローンにより上空からの写真撮影を行い、随時コミュニティだよりに掲載をしたいと考えております。皆様の撮影へのご理解ご協力とご承諾をお願いいたします。尚、撮影にご協力ご承諾出来ない方は、お手数をお掛けいたしますが3月25日(金)までに事務局へご連絡をお願いいたします。



防犯灯をLED照明に交換



〈石鳩岡5区地内〉



〈南川目7区地内〉



〈前田10区地内〉



〈北前田2区地内〉

当会で設置した13灯の防犯灯の内、修理等により既に交換している防犯灯を含め8灯をLED照明にしました。防犯はもとより、近年増えてきている鳥獣被害による農産物等の被害防止のため、現在の水銀灯照明より明るいLED照明にしました。残りの5灯についても随時交換していきます。

【冬の小山田の風物詩】

小山田振興センターに出来た220cmのつらら



寒い日の朝に出来る
氷の花



見かける事が少なくなった「雪だるま」

軽井沢堤で羽を休める白鳥



普段何気なく日々の生活を送っている地域で、ふと足を止めてみると思いがけない風景に出会うものです。軒下のつらら、小枝に出来た氷の花、最近見かける事が少なくなった雪だるま、羽を休める白鳥。冬の小山田の風物詩です！！

令和4年2月末現在

(): 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	57 (0)	88 (1)	71 (0)	159 (1)
第2行政区	148 (1)	203 (0)	191 (-1)	394 (-1)
第3行政区	156 (0)	218 (0)	232 (0)	450 (0)
第4行政区	110 (0)	182 (0)	171 (0)	353 (0)
計	471 (1)	691 (1)	665 (-1)	1,356 (0)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



〈ひな祭り〉
平安期頃、土や紙の人形にけがれを移して水に流す「流しびな」の行事が起源とされています。

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp



脚光を浴びる家族農業 その2 (令和3年1月号の続き)

明日の小山田を考える会
会長 菊池 保守

2017年に国連がなぜ家族農業の10年を採択したか?という、2008年の世界的な食糧危機が発生した際、スペインの国際NGO・世界農村フォーラムが「国際家族農業年」の設置を求める運動を介したことが始まりなようです。その後、国連総会の本会議で、2019-28年を「家族農業の10年」とする議案が全会一致で可決成立しました。これは、コスタリカ政府が代表となり、日本を含む104カ国が共同提案国となったものです。

国連が定める家族農業の定義としては、「労働力の過半を家族労働力でまかなう農林漁業」としています。国際連合食糧農業機関(FAO)によると、家族農業は世界の農業経営の約9割を占め、世界の食料供給の約8割を生産しています。経営規模では、1ha未満が73%、2ha未満では実に85%を占めています。

家族農業についてはこれまで、時代遅れや非効率、儲からない、と酷評され、国が政策的に支援すべきは、効率的で儲かる、近代的な企業農業とされてきましたが、ここにきて農業の効率性を測る尺度自体が変化してきました。例えば、エネルギー効率性で評価すると、化石燃料や肥料、農薬等の農場外部の資源への依存度が低い小規模・家族農業の隠れた効率性が注目されてきたのです。

FAO事務局長は、2013年に「家族農業以外に持続可能な食料生産のパラダイムに近い存在はない」「国や地域の開発において、家族農業を中心とした計画を実行する必要がある」と述べました。このように、小規模・家族農業の活性化なくして食料の安定供給、貧困・飢餓の撲滅、農村地域の資源管理や持続可能な社会の構築は不可能だということを、遅ればせながら国際社会が認識するようになり、政策の舵をいま大きく切っています。



我が国においても、令和4年度の農林水産省概算要求を見ると、環境負荷軽減に資する「みどりの食料システム戦略」として、全国100地区をモデル地区として指定し、有機農業の団地化や学校給食での利用、販路拡大などに交付金を支出するほか、グリーンな栽培体系への転換に向けた技術の確立や普及啓発セミナー開催など、有機農業推進のための助成をすることとしているようです。予算をみても、みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業に3,466百万円、有機農業産地づくり推進交付金3,000百万円などがあります。

国でも本格的に環境負荷軽減と農業の持続的発展に力を入れていこうとする気概が感じられます。

【編集後記】 雪解けも進み、これから水稻作物等の農作業が本格的に始まる時季を迎えます。今年は水稻作付の減反面積が増え、さらに今後5年間に一度も水張が行われない農地は交付対象水田としない、戦略作物助成(多年生牧草)の単価の見直し、飼料用米等の複数年契約加算の新規取扱を対処外とするなど、水田活用の直接支払交付金の見直しが示されました。農家経営はますます困惑するばかりです。(菊池)

